



# 碧南ロータリークラブ週報

第2923回例会 令和元年8月28日(水)

- 会長 伊藤 正幸
- 幹事 黒田 泰弘
- 会場監督(SAA) 永坂 誠司

2019-2020 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)



- 会報委員 鈴木きよみ・林 俊行・平松則行・石川鋼勇

## ● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ● 本日のお弁当

大正館

## ● 本日のお客様

顎顔面口腔外科医 岩田雅裕様、岩田宏美様

## ● 本日の卓上花

センニチコウ、オミナエシ、リンドウ

## 会 長 挨拶

こんにちは。本日は8月28日、処暑の次候で天地始粛。ようやく暑さが静まり、秋の気配が感じられる頃だということでございます。今週に入って気温が下がりました、秋らしさも少し感じておりますけれども、今度は前線や湿った空気の影響で、雷雨やゲリラ豪雨が心配でございます。九州北部や中国地方では、記録的な大雨が降り、被害が出ているということでお見舞いを申し上げ、厳重な警戒をお願いしたいというふうに存じます。まだまだ厳しい暑さが残る日々を過ごさなければならぬと予報ではしておりますけれども、自然は季節の移ろいを確実に進めているというふうに思います。



伊藤正幸会長

先日、葵カントリークラブで赤蜻蛉を見ました。ご承知の通り、蜻蛉は秋津とも言われます。神武天皇が国見をして、「蜻蛉(アキヅ)の臀帖(トナメ)の如くにあるかな」というふうに言われたことから、日本の別名の秋津洲の名が起こったそうでございます。山々に囲まれた美しい地形と豊穡をもたらす蜻蛉を重ねてイメージされたものだそうでございます。私

ども日本人にとって秋は胸騒ぐ季節だというふうに思います。食欲の秋、スポーツの秋、文化の秋、読書の秋、芸術の秋、そして行楽の秋。ある日本びいきの番組で、日本にはよその国に比べて四季があってすごいというような話題があり、アメリカ人の芸人の厚切りジェイソンが「世界中どこでも四季はあるよ。」と言ったら、どうもカットされたようでございます。日本人には四季の移ろいが理解できて、外国人には理解できないということがあるそうでございます。日本人は虫の音や自然界の波音、雨音、機械音、雑音と同様に右脳で処理して、それらの音を左脳（言語脳）で処理をしているというようなこととございます。生きとし生けるものの声に耳を傾け、自然界の音に意味を見出すのが日本人でございます。音に対する捉え方が違うということは、五感に関わる全ての面で日本人特有の捉え方があります。自然の事象に対する受け取り方が日本人と外国人では違うという事実がここにございます。それによって日本人は四季の違いを明確に捉えるということでしょう。四季や自然の営みに対して心から感動する日本人の感覚を外国人は理解できません。日本人の脳の違いは人類の多様性増大に貢献しているということとございます。虫の音に耳を傾ける日本の文化がこれからも人類全体の文化をより豊かにする特性的なものであり続けると思います。

知的多様性と革新的柔軟性が今年度の伊藤ガバナーのキーワードとなっております。違いを理解し、違う相手を受け入れるということも必要だというふうに思われます。碧南 RC におきましても、私どもにしかない独創性を多様性と柔軟性でより良く発揮していただきますことをお願いしたいというふうに存じます。

さて、本日の卓話の講師の先生は顎顔面口腔外科医の岩田雅裕様でございます。平成 12 年よりカンボジアでの医療支援ボランティアを皮切りに無償で最貧国の医療支援を行っておられます。よろしくお願い致します。

最後になりますけれども、「秋の夜も 名のみなりけり 逢ふといへば 事ぞともなく 明けぬるものを」小野小町でございます。「秋の夜が長いだなんて言葉で言うだけのことだったわ。愛しいあの方にやっと逢えたその夜は何ということもなくまたたく間に明けてしまったの。」ということとございます。

以上。会長挨拶とさせていただきます。

## 幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- 例会変更のお知らせは、幹事報告書の通りでございます。
- 10月12日（土）のWFFを例会扱いとさせていただいておりますけども、セレモニーで使用できる例会場の時間の指定が10時30分～10時45分の15分間になります。逆算すると9時前後にバスで向かうということになると思います。詳細については改めて報告させていただきます。
- 次週、第3回理事会を開催致しますので、関係の皆様はご承知おき願います。



黒田泰弘幹事

## 委員会報告

### <出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 65 名 (内出席免除者 15 名の内出席者 13 名) 出席者 56 名	
出席対象者 56/63 名	出席率 88.89%
欠席者 9 名 (病欠者 0 名)	

### <ニコボックス>

- 伊藤 正幸君 岩田先生、宏美様、ご来訪心より歓迎申し上げます。
- 杉浦 勝典君 8月24日(土)午後5時台のテレビ朝日のニュース番組「スーパーJチャンネル」中国大連市の京都の街並み巨大プロジェクトが進行中と報道されました。建築資材、屋根瓦はマルスギが指定され、当日工場を見学され小生が案内役をつとめPR出来ました。インターネット、YouTube等々スマホで見えます。「テレビ朝日」中国京都と検索すれば、ご覧頂けます。よろしく。
- 栗津 康之君 ジャケット忘れました。
- 梶川 光宏君 本日の卓話講師、岩田雅裕様を紹介させていただきます。

## 卓話

### 「アジアに医きる奮闘記」

顎顔面口腔外科医 岩田雅裕様、岩田宏美様



岩田宏美様、岩田雅裕様

皆さん、こんにちは。過分なご紹介どうもありがとうございます。本日はお招きいただきまして、どうもありがとうございます。今ご紹介いただいたように私は口腔外科医です。1年間、海外と日本を行ったり来たりをずっとしているのが私の仕事です。ここは医療関係の方もおられますし、そうでない方もおられると思いますので、海外の医療ってこんなもんだよというのをわかっていただけたら良いかなと思います。

日本はボランティア精神の低い国だとある団体の調査で言われています。その調査では3つの要素がありまして、寄付をする精神、見知らぬ人を助ける精神、もう1つは忘れました。私のやっていることは、その見知らぬ人を助けるということに関わってきているのかなと思いますので、その話をさせていただいて、皆様のお役に立てることがあったら良いかなと思います。

私はずっと無償医療支援をやっておりまして、向こうに行く渡航費やホテル代は自腹で全部出して、日本で稼いだお金を使って手術をしております。大体、貧しい国なので、患者さんはお金を払いませんから手術代を私が賄っております。

私は1986年に岡山大学を卒業したんですけれども、それから色々あって総合病院の口腔外科の部長をずっとやってきて、37歳の時に中国で活動を開始しました。一番たくさん行った国はカンボジアです。その後、総合病院の部長をしながら、休みを最大限に使って行っていたんですけれども、2013年からはより活動しやすいようにフリーランスになりました。

1997年、当時の中国はそんなに発展しておりませんでしたので、まだまだ医療も遅れていた時代です。医療者に対しての教育をしたり、手術をしたりということをしてきました。1999年からカンボジアに行くようになりました。私が行っている国はどこも医療後発国です。医療後発国を支援していくには、何でその国が医療後発国かということを考えて行かざるを得ません。私は色々な国に行っているんですけれども、それぞれの国に対しての医療支援の仕方が全て異なります。今回は一番行っている回数の多いカンボジアの話をしていただきます。

カンボジアは非常に子供の多い国です。皆さん方のカンボジアのイメージとしては、ちょっと怖い国かなという方が多いと思います。皆さん方の年齢ですと、内戦があったのをご存知かと思います。当時は地雷で足を失った子供がたくさんおりました。1970年から約30年間、カンボジア人がカンボジア人を殺すという時代を経てきました。そういうことをしていると当然、経済的には破綻してしまいますから、カンボジアの1人当たりのGNPは150~200ドルくらいで、かなり経済的には貧しい国だということがわかります。医療に関してはというと、クメール・ルージュ後にカンボジアに残った医師は45人でした。内戦前に800人いた歯科医師は、内戦後には28人しかいませんでした。医学部教授は19人いたんですけれども、全員殺されてしまいました。ということで、医療をやる人がいない、これから医療をしようとする人に教える人がいない、というのがカンボジアの状況でした。このような状況ですと、無免許の医者がいっぱい出てきたり、治る訳もない伝統医療をやる人が出てきたりします。政府は取り締まろうとしていますけれども、ニーズがありますから、免許を持った人だけでは成り立たないということで、完全に排除することができないというのが実際です。

医療援助を実際に見てもらうのに代表的なカンボジアのシェムリアップでの話をさせていただきます。これが1999年に私が行くきっかけになったNGOの病院です。NGOの病院ですので、医療費はタダです。1日に患者さんが600人程来ます。初日はどんな患者さんなのかを診察・診断をして手術日を決めました。約70人の患者さんを診ました。1週間しか手術日がありませんでしたので、70人を手術するのは不可能です。ですので、30人の手術を行いました。残った患者さんの手術はできないということで、苦渋の選択をしなければならないということになりました。手術日は1日に5~8件の手術を行いました。日本だったら1日に2~3件が普通です。他に小児科医が終わった後、夕方からは唇裂口蓋裂の手術を1~2件行いました。午前8時から始まって、午後10時ぐらいに終わるというのが私の1日のサイクルでした。

何でこんなことをやっているかと必ず言われるんですけれども、自分のやったことで感謝してもらえることに生きがいを見いだしています。あるいは退院していく方の笑顔を糧に続けています。お金を抜きにした医療に医療の原点があるのかなと思っています。患者さんを1人でも多く診たいということで、53歳からフリーランスでやっております。最も大事なものは

継続するということです。無償途上国医療支援 20 年間で、渡航回数が 219 回、手術件数が 3262 件です。一番多いのはカンボジアで、渡航回数が 108 回、手術件数が 2392 件です。ニーズがある新しい国へもどんどん行っています。去年からタイやカンボジアの地方へも行くようになりました。環境が非常に悪いということで、今までは手術や医療教育だけでしたが、病院の環境改善への取り組みも始めました。

こんなことをやっているのが私の 20 何年です。いつも考えているのは、「その瞬間は日本代表」ということです。

ご清聴ありがとうございました。

### 次回例会案内

令和元年 9 月 11 日（水）ガバナー補佐訪問・クラブ協議会

ガバナー補佐 稲垣 良次様

分区幹事 杉田 明弘様

地区副幹事 森 弘好様